

第232回 昭和の森自然観察会

春の花と虫の深~い関係

堀 泰洋（千葉市）

日 時：2011年4月10日（日）13～15時 天候：晴れ

参加者：大人17名 子ども3名 指導員22名

担当指導員：田井中信子 山下美佐子 堀 泰洋

2月、3月の観察会が中止となり、久しぶりの昭和の森自然観察会となりました。穏やかな晴天で、風もそれほど強くなく、公園内のサクラなどちょうど見頃を迎えており、花や虫を観察するには絶好の天気に恵まれました。今回の観察会は、小さな虫や花を対象に、その関係をじっくりと見るというものでしたので、各班少人数になるように3班に分かれて行いました。

オオイヌノフグリ、ホトケノザなどが生えている陽の当たっている斜面をよく見てみて、そこにやってくるアブ類や小さな花の構造を観察しました。小さな花でもおしべとめしべがあって、花粉の媒介に虫が関わっていることや自家受粉もすることなどについて説明しました。

菖蒲田の方へ下っていくと、カタクリの花が見頃を迎えており、カタクリガイドが実施されていました。ガイドの指導員の方からカタクリの生活史や生息している環境について説明していただきました。鏡を使ってカタクリの蜜標を観察するとともに、カタクリのように下向きに咲く花にはどんな虫がやってくるのかを説明しました。菖蒲田を歩いていくと、スジグロシロチョウやルリタテハが舞っている様子や、足下に目を落とすと、ギンギンにいるコガタルリハムシが観察されました。

もみじ広場へと行く途中でアオキが茂っているところがあります。花を観察してもらい、雄花と雌花の違いを発見してもらいました。そのときには虫を見ることはできませんでしたが、たくさん茂っているアオキを見て、花粉を媒介している虫の活動を感じてもらえたと思います。また、アオキミタマバエに寄生され、緑色になったままのアオキの実を見て、食べられないようにするための工夫に、参加者の方は感心していました。

もみじ広場ではコブシの花が白く輝いており、芳香を放っていました。足下にはタンポポやスミレが咲いており、ハナアブやハナバチがせっせと蜜や花粉を集めている様子を観察することができました。カップレンズに入れて観察すると、スミレの距に適応したビロードツリアブの長い吻やハナバチの体の毛にたくさんの花粉がついている様子を見ることができ、花と虫の関係をより実感してもらうことができたのではないかと思います。ここで本日の目玉のウラシマソウの登場です。ちょうど雄花と雌花が並んで咲いているところがあり、その変わった形と虫との関係を説明するのに都合がよかったです。実際に仏炎苞を注意深くのぞき込んでもらい、雄花と雌花を確認してもらったり、それぞれの花の根元の隙間の違いを見もらったりしました。

雌花の中にハエの死体がある様子も観察することができました。

参加者の方からは、「子孫を残すためにいろいろな戦略があることがわかった」「細かく見るという視点が新鮮だった」などの感想が聞かれました。小さな生き物たちをじっくりと観察する観察会になり、生き物同士のつながりを実感していただくことができたのではないかと思います。

